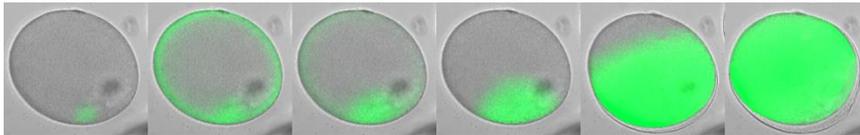
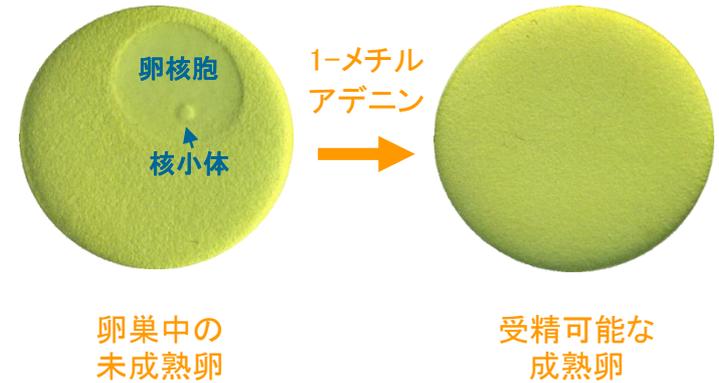


ウニやヒトデを用いて卵成熟と受精の仕組みを探ろう



卵成熟誘起ホルモンによるイトマキヒトデ卵、卵成熟の進行



ウニ卵受精時の卵内カルシウムイオン濃度変化(緑色)

担当: 経塚 啓一郎

実施期間: 11月22日(土)-24日(月)

実施場所: 浅虫海洋生物学教育研究センター

研修内容

1. 雌の卵巣内の(卵母細胞)は、どのようにして受精発生する能力を獲得するのか・・・卵成熟誘起ホルモンの作用とその過程に働く因子をイトマキヒトデの神経から抽出します。
2. 受精すると卵はどのようにして発生を開始するのか・・・受精時の卵内カルシウムイオン濃度変化を測定し、その意味を考えます。この実験に必要な顕微注射技術、卵内カルシウムイオン変化を視覚化するための画像解析技術を習得します。
3. センターで実験用に飼育するクラゲ類の生活史やホタテガイの解剖を通して海の生物たちと触れ合います。
4. 討論会とまとめ。